

「日々の理科」(第 2287 号) 2020, 10, 16

## 「チヂミザサの探究 (3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

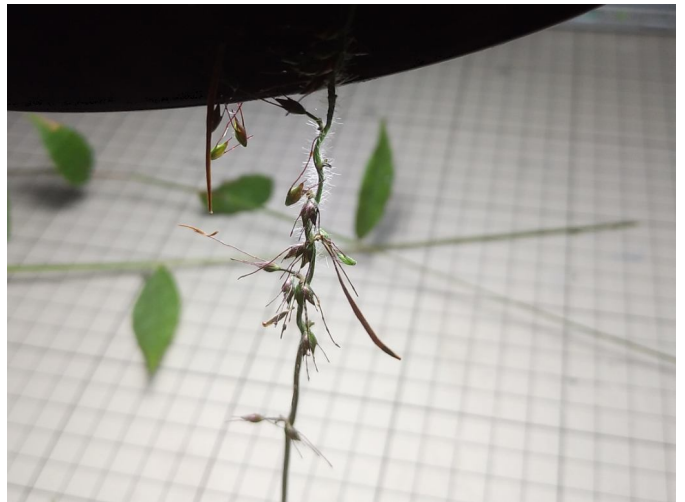
チヂミザサの種子には細いトゲはあるものの、アメリカセンダングサのような「抜け防止」の突起物のようなものはない。しかし、驚くべき戦略で種子を拡散させていることがわかった。



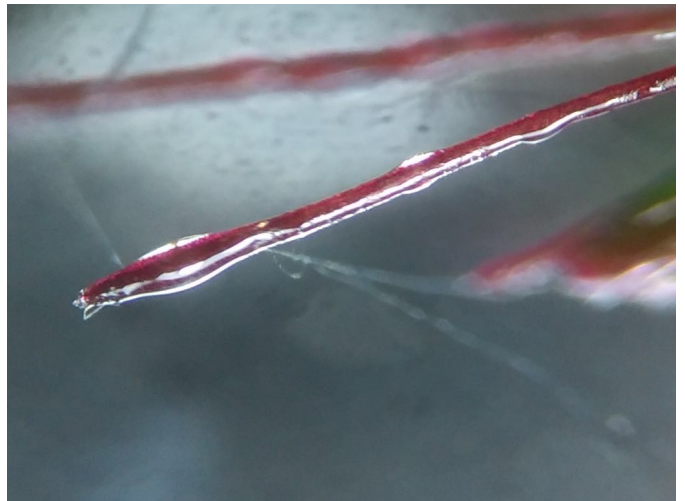
種子から伸びたトゲに触ると、何かべたべたしている感じがする。目を近づけてよく見るとトゲに何か液体のようなものがついているようだ。



時にはこのように小さな昆虫が、そのネバネバした液にとらえられていることもある。まるで高原の湿原で見られる「モウセンゴケ」のようだが、チヂミザサはもちろん食虫植物ではない。



試しに穂の一本をものにくっつけてぶら下げてみた。自重に耐えて、そのままずっとぶら下がっていた。あとは顕微鏡に登場してもらうしかない。



まずは低倍率で見ると、トゲ全体を透明な膜(粘液)のようなもので覆われている。やはりこれがネバネバの正体のようだ。



トゲの先端部を高倍率で観察してみた。先端は特に多くの粘液で覆われている。イネ科の植物にあって、なかなか教材性の高い雑草だとわかった。